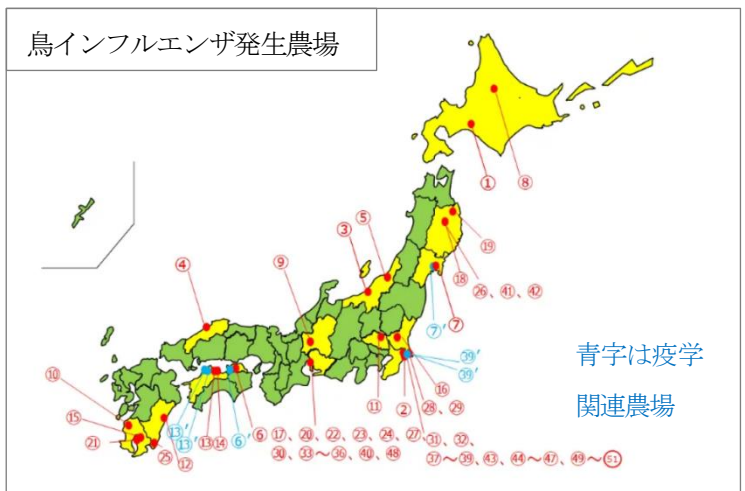
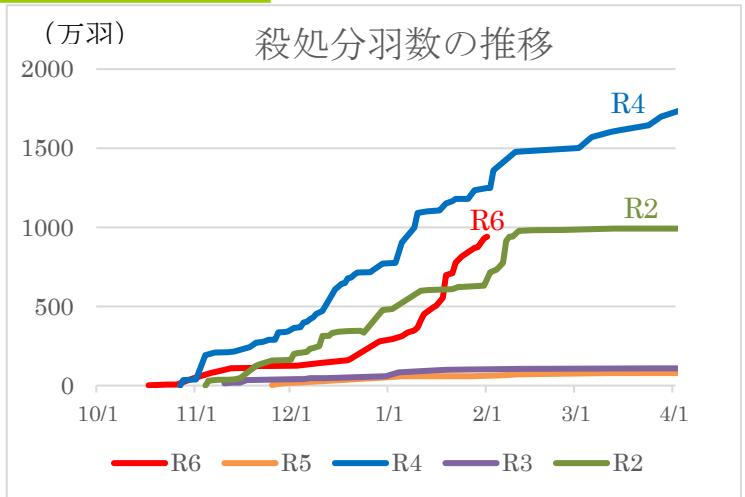


## 鳥インフルエンザの国内の発生状況について

現在、高病原性鳥インフルエンザの流行期にあり、全国各地で発生しています。今シーズンは家きんの初発生が昨年10月17日で、過去の流行と比べて最も早く始まりました。殺処分羽数の推移は12月に緩やかになりましたが、1月には大規模農場での発生が相次ぎ、2月1日時点で14道県51事例約932万羽となりました。殺処分羽数の推移を過去数年間のものと比較すると、記録的な被害に発展したR4年度、R2年度に並ぶ増加ペースをたどっており、今シーズンの流行の規模が甚大であることがわかります。この事態を受けて、昨年、農林水産省は対策強化のポイントを打ち出しました。従来の対策に加えて、新たに「農場に出入りする業者の消毒の徹底」、「鶏舎への塵芥侵入防止策」、「大規模農場及び過去に発生した農場に重点をおいた指導」について明示されました。流行の時期も半ばまで過ぎたと思われませんが、難局を乗り切るため、家きん飼養者の皆様には鶏舎の点検、消毒の徹底、異常を発見した場合の早期通報を引き続きお願いいたします。



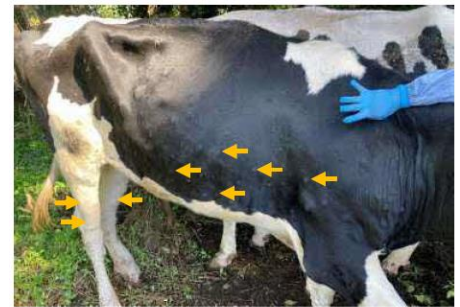
## R6 年度異常産サーベイランスの結果について

異常産サーベイランスは吸血性昆虫によって伝播する異常産ウイルスの流行状況を把握するため、毎年6月から1月にかけて年4回の調査を実施しています。牛の異常産にはアカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症などが含まれ、流死産や胎子の奇形といった問題を引き起こします。調査の結果、島根県内ではアカバネウイルスの侵入は認められませんでした。8月の調査でチュウザンウイルス、アイノウイルス、ピートンウイルスが侵入した可能性があることがわかりました。現時点では、当所管内ではこれらのウイルスによる異常産は確認されていませんが、もし、出生子牛に異常を認めた場合には家畜保健衛生所までご連絡ください。また、令和6年度も異常産サーベイランスにご協力いただいた農家の方々には感謝申し上げます。今後も本調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

## ランピースキン病の発生状況について

昨年11月6日に国内初のランピースキン病の発生が確認されました。本病は牛や水牛で発症するウイルス感染症であり、皮膚の結節を特徴とする疾患です。本病は、死亡率は高くなく、自然治癒しますが、発熱や乳量低下などによる経済的被害を伴うため、発症牛の生乳出荷や移動の自粛が必要となります。また、サシバエなどによる吸血または汚染物との接触により感染するため、発生予防として農場内の吸血昆虫駆除、発生地域で使用されていた器具などを持ち込まない、やむを得ず持ち込む場合には洗浄消毒をするといった基本的な衛生管理が重要となります。サシバエ対策として堆肥の発酵消毒やIGR剤の散布により堆肥中の蛹や幼虫を死滅させる方法や、複数種の殺虫剤をローテーションで使用する方法、防虫ネットの設置が推奨されています。特にIGR剤は堆肥に潜む幼虫に作用するため、サシバエが飛び始めるよりも前の寒い時期から散布することでより高い効果を得られます。

初発から約4か月が経過し、福岡県19例、熊本県3例で合計230頭の発症を確認しましたが、自主淘汰および陰性確認検査により現在発症牛の頭数はゼロとなりました。本病のまん延を防止するため、飼養牛に異常を認めた場合は家畜保健衛生所に早期の通報をお願いいたします。



結節（全身性）



結節

結節

写真提供：FAO、State Central Veterinary Laboratory in Mongolia

## 定期報告について

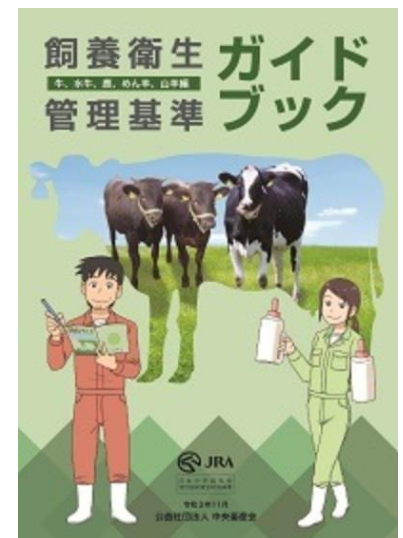
家畜を飼養している方は毎年、飼養している家畜の種類・頭羽数などの飼養状況と、飼養衛生管理基準の遵守状況を都道府県へ報告（定期報告）することが家畜伝染病予防法で義務づけられています。

益田家保では、検査や繁殖巡回、飼養衛生管理基準の遵守状況確認等で農場へ伺った際に聞き取りで確認を行っていますので、現在の飼養状況について、あらかじめ整理いただきますようお願いいたします。例年、メインで飼養されている家畜以外（めん羊、山洋、少羽数の鶏など）の報告漏れがありますので、こちらについても漏れの無いようご注意ください。

なお、飼養衛生管理基準の遵守については、日ごろからご注意いただいているところとは思いますが、特に

- ①衛生管理区域の入り口に看板を設置しているか、②消毒槽を設置しているか、
- ③カレンダー等で来場者を記録してあるか、の3点について改めて遵守状況をご確認ください。飼養衛生管理基準の詳細については、農林水産省のホームページに掲載されていますので今一度ご確認をお願いいたします。

繁殖巡回の対象でないなど、家保が伺う機会のない農家の皆様については、別途ご連絡を差し上げますので、ご対応いただきますようお願いいたします。



### 編集後記

今年度は県内で鳥インフルエンザの発生、九州でランピースキン病の発生といった事件が立て続けに起きた一年でした。来年度も適正な飼養と早期通報のご協力をお願いいたします。（角）